

- 1 報告地区 : 十勝地区
 - 2 事例報告学校名 : 足寄町立螺湾小学校
 - 3 報告者職・氏名 : 校長 牧 伊津子
 - 4 キーワード : 地域とともに育む教育活動
-

1 はじめに

螺湾小学校は、足寄市街より北東へ国道241号線に沿って16kmの地点にある。阿寒国立公園に隣接し、星降る湖として有名なオンネトーやたくさんの登山者が集まる雌阿寒岳も近くにあるなど、周りを山や丘に囲まれた、自然豊かな環境である。螺湾という地域のいわれは、アイヌ語で「低いところにある川」という意味の言葉から由来している。地域特産品の「ラワンブキ」は、平成13年に北海道遺産として認定され、農家による栽培管理がなされている。

本校は児童数11名で、複式3学級の小規模校である。平成26年には螺湾保育所が校内に移転し、保育所を併設した学校でもある。小規模校という特色ゆえ、上級生が下級生を気にかけてたり次に何をするか教えたりする場面は多く、相手を思いやり、助け合いながら生活している。

本校では、地域の環境・人材を生かして、子どもたちが社会や世界と向き合い、地域の人と関わり合っ
て自分の人生を切り拓いていくために必要な資質・能力を育む教育活動に取り組んでいる。

2 地域の環境、人材を生かした取組

本校は、多様な価値観に触れ、自ら考え、判断し、自分の思いを表現できる力を身に付けるために様々な体験活動を行っている。

(1) 化石掘り体験

学校前を流れる螺湾川沿いの崖で、地層の学習と化石掘り体験を行っている。螺湾地区には、きれいなシマ模様の崖があり、このシマ模様は、遠浅の穏やかな海の底に泥が積もってできたものである。足寄動物化石博物館の学芸員に講師を依頼し、地層について学び、化石掘りをしている。子どもたちは、二枚貝の化石を採集し、太古の昔に想いを馳せる。



(2) 雌阿寒岳登山

自然に親しみ、体力の向上を図るとともに、目標に向かって最後まで諦めず行動し達成感を味わわせる目的で行っている。町内の山友会の方にご協力をいただき、登山の指導と安全確保を図っている。この登山には保護者も参加し、みんなで気持ちの良い汗を流し、感動を共有している。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で登山ができなかったため、螺湾川での着衣水泳体験を実施した。

(3) ラワンブキ学習

螺湾地域の特産物であるラワンブキについて、農場を見学したり話を聞いたりしている。高さが2mから3mほどに達する巨大なラワンブキを見たり刈り取ったりする体験は、地元ならではのものである。子どもたちにとっては、小さい頃から身近にあるラワンブキだが、なぜこれほどまで大きくなるのか謎も多く、子どもたちは瞳を輝かせながら探求学習に取り組んでいる。



(4) 保育所との交流

生活時間が違うため、同じ建物内で生活をしていても日常的な交流は少ない。しかし、避難訓練や運動会・発表会は合同で行っている。その他の交流としては、保育所の園児をミニコンサートに招待したり、本校児童が保育所行事（七夕まつりやもちつき集会等）に参加したりして交流している。兄弟関係も多く顔なじみということもあり、楽しい時間を過ごすことができている。

(5) 地域の人材活用

写真撮影会、茶道・陶芸体験、百人一首やスキー、スケートなどにおいては、町内在住の茶道家や生涯学習センターで活動されている方、町内の連盟に依頼し、講師を派遣していただいている。限られた時間ではあるが、専門的な知識・経験を持つ方の指導は、私たちも参考になる。また、稲作体験と農園活動も行っており、保護者を通して講師を依頼している。

(6) その他



「ようこそ先輩！」美術大学に進学した卒業生が帰省している期間に講師を依頼し写生会を実施した。絵を描くときのポイント（構図、彩色など）をわかりやすく指導していただいた。子どもにとって身近な卒業生から、絵のことはもちろんだが、進路についても話を聞くことができ有意義であった。

その他、駐在所と交通安全協会の協力を得て、「交通安全キャンペーン」や、「交通安全教室」を実施している。また、高齢者利用施設を訪問して交流している。毎年行っていることも、ポイントを絞って変化をつけながら取り組んでいる。

3 おわりに

「へき地校」「小規模校」である本校は、地域とともにある学校づくりを進めやすい環境にある。学校を核とした歴史と伝統のある本校は、もともと学校・保護者・地域のつながりが深い。豊かな体験・交流活動を継続できるのは、「子どものために」、「学校のために」という地域の熱い思いがあるからこそである。子どもたちは多くの方々と触れ合い、実際に体験したことに興味をもち、理解を深めている。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、できなかったこともあるが、やり方を工夫しながら可能な限り取り組んだこともある。さまざまな体験活動は、教育課程のどこに、何が、どのように位置づけるかをマネジメントしつつ、地域とのつながりを大切にし、地域とともに子どもたちの健やかな成長を願い、育んでいきたい。